

本器の取付けには電気工事士の資格が必要です。かならず専門業者のかたが施工を行ってください。

同梱の説明書はお客さまへの取扱説明書となっております。
必ずお客さまに取扱いの説明を行っていただき、本書とともにお渡しの上、保管をお願いしてください。

安全に関するご注意

ケガや事故防止のため、以下のことを必ずお守りください。

警告

●出力を短絡しないでください。
また誤結線のなきよう特にご注意ください。
ブレーカのトリップテストは調光器を取り付ける前に行なってください。一瞬の短絡で本器は破壊し、発火の危険性があります。
内部の電力回路が破壊しても、多くの場合、調光レベル表示灯は正常に点灯しますので、機器の故障判定の目安にはなりません。ご注意ください。

●必ず最大負荷容量以下でご使用ください。
異常発熱や火災の原因となります。

●負荷切替スイッチを正しく設定してください。（4ページ参照）
出荷時にはすべての回路がON-OFF設定になっています。蛍光灯を調光モード側で動作させますと、本器や器具の破損や、火災の原因となります。

●浴室など湿度が高いところに取り付けないでください。
火災や感電の恐れがあります。

●説明書に記載された電線を使用し、差し込み端子には電線穴に奥まで差し込んでください。
指定外電線の使用や不十分な結線は機器の異常発熱・火災の原因となり危険です。

●改造しないでください。
異常発熱や火災などの原因となります。

●ライトマネージャーSの出力にコンセントを接続しないでください。
火災などの原因となります。

注意

●テレビ、ラジオ等に雑音を入れないために
・雑音防止装置を内蔵しておりますが、テレビやラジオなどAV機器や、無線機器に雑音障害を及ぼす場合があります。本器の近くでは使用しないよう、特にご注意ください。
また、AV機器側には以下の対策を実施してください。
(1) AV機器の器具アースを 確実にとってください。 (2) 有効なアンテナを張って ください。 (3) 本器とAV機器やアンテナ、アース線とは1m以上離してください。

●本器をシーンマネージャーや調光装置（調光盤）、ハイパーライコン（Ⅱ）及びリビングライコンと接続して使用することはできません。

●周辺機器と連動させる際には、伝送信号線と終端抵抗を正しく接続してください。
（この説明書の3ページ参照）

●ハイパーライコン（Ⅱ）及びリビングライコン用周辺機器を接続することができません。

【仕様】

品番	NQ28641	NQ28661
定格電圧	AC100V 50／60Hz共用	
使用温度範囲	0～35℃（結露なきこと）	
回路・シーン数	4回路4シーン	6回路4シーン
最大容量	500V A／回路以下 但し 合計1300V A以下	500V A／回路以下 但し 合計1500V A以下
フェード時間	0～5.9秒・1～9.9分（可変）	
適合スイッチボックス	JIS 4個用 カバー付	JIS 5個用 カバー付

【結線方法】

適合電線は下記の通りです。
電源端子（差込式）：銅単線（VV F, I V等）のφ1.6またはφ2.0×1ペア
出力端子（差込式）：銅単線（VV F, I V等）のφ1.6またはφ2.0×1ペア×回路数
伝送信号端子（ネジ式）：EM-CPEE-S φ0.9×2ペア以上

電源および出力端子は
φ1.6 または 2.0 銅単線専用です。

伝送信号端子は
EM-CPEE-S φ0.9×2ペア
以上（銅単線）を使用し、
RC E端子にシールドを
接続してください。

（本体裏面）

電源

出力4 出力3 出力2 出力1 RCE

はずし穴

終端抵抗（↓下記参照）

電線の分量が多いため、スイッチ
ボックスを使用して取り付ける場合
は、φ1.6電線の使用をおすすめし
ます。VV F電線使用の場合は、ス
イッチボックスの外でシースをはが
してください。

＜電線のはずし方＞
電線のはずし穴に電工ドライバー（中又は小）を十分にまっすぐ
差し込んで電線を引き抜いてください。
電線をはずす際、ドライバーを強くこじたり、回転させたりする
と周辺の成形品が欠けることがありますので注意してください。

＜子器との接続および親器 2 台接続される場合の注意＞

ライトマネージャーの伝送信号線で周辺機器（子器）を接続する場合、

●1台ずつ送り配線（一筆書き配線）してください。
上記以外の配線では正常に動作しません。

●信号端子台の RC+、RC- 端子間には同梱の終端抵抗（100Ω 1W）を接続してください。
終端抵抗は、信号配線の両端 2ヶ所の機器だけに必要です。

終端抵抗は、箱を開けていただくと、
ビニール袋に入れて、本体の上部位置に
貼り付けてあります。

終端抵抗は必要な機器にだけ接続してください。

正しい配線方法

誤った配線方法

一筆書き配線でないため、
終端抵抗に関らず
正常に動作しません。

●接続する機器の数に関係なく、必要な終端抵抗は2つだけです。
終端抵抗がなかったり、両端以外の機器に終端抵抗を接続すると、
動作に支障をきたす場合があります。

●伝送信号線の総延長は 50m以下にてご使用ください。

●伝送信号の接続を切ったり、新たに増設する際は、電源を切って行ってください。

3

【適合負荷一覧】

・ライトマネージャーSに直接接続できる負荷

	負荷
調光可能	白熱電球 ハロゲン電球 当社製ダウントランス付照明器具
ON／OFF	当社製LED照明器具 当社製蛍光灯器具（注） 当社製電球形蛍光灯（1～8灯/回路）

注）インバータ照明器具をON／OFFする場合は、スイッチ投入時の電流が
大きいため定格容量の8割（4 A/回路）以内で使用してください。

当社製LED電球も接続可能です。接続台数は当社HPまたはカタログを
ご確認ください。

・接続できるブースタ1回路用（別売り）

NQL10001	白熱灯用
NQL10010-1 NQL10010-2	蛍光灯（DH100V）用 蛍光灯（DH200V）用
NQL10021	インバータ・LED用
NQL10031	ON／OFF用

適合負荷は各ブースタの説明書でご確認ください。

2

＜電源線差し込み時のご注意＞

・電源端子への入力線は、必ず付属の半透明の
保護チューブを通して本器に接続してください。
耐熱の効果があります。

・付属の半透明チューブは加工しないでください。
耐熱効果がなくなります。

【調光とON／OFF設定の切替えについて】

本器は白熱灯照明を「調光」することができ、蛍光灯
などの負荷を「ON／OFF」することもできます。
出荷時には4回路とも（または6回路とも）、
「ON／OFF」に設定されています。
白熱灯照明を「調光」に設定するには、プレートをは
ずし、右上の設定スイッチのうち、
「負荷切替スイッチ」を細いマイナスドライバーで
「調光」側に動かしてください。

警告

蛍光灯を「調光」側で使用しないでください。
また、調光機能付きの照明器具も
「調光」側では使えません。本器や負荷を
破損させたり、火災の原因となり、危険です。

注意

工場出荷時は「ON/OFF」側になっています。

負荷切替スイッチ

4回路の場合
（下から4番目まで）

6回路の場合
（下から6番目まで）

＜適合負荷＞

ON／OFF側で使 できるもの	調光側で使 できるもの
白熱灯器具（指定 のダウントランス を含む） 蛍光灯器具 LED照明器具	白熱灯器具（指定 のダウントランス を含む）

【取付方法】

スイッチボックス取付け
（はさみ金具は使用できません）
スイッチボックス

壁面

同梱部品
終端抵抗
施工・取扱説明書
表示シールド保護
チューブ

取付ネジ（M4 皿）
（別途）

プレート

注意

●取付の際は必ず4スミで取り付けてください。対角2スミで止めると、プレートが歪んで
押しボタン操作ができなくなる場合があります。

●取付時、取付ネジを強く締め付けないでください。締め付けすぎるとプレートが
歪んで押しボタン操作ができなくなる場合があります。

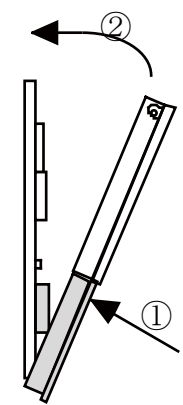
●プレートを取付後、押しボタンの凹みや引っ掛かりがないことを、確認してください。

NQ2866-23-S3AS3B120101

4

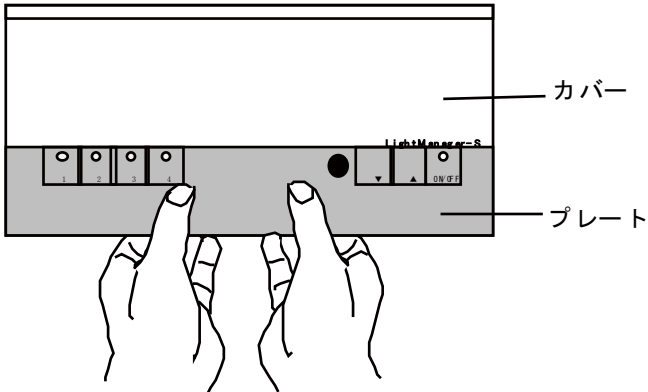
【プレートの取付け方】

- ①プレートの下部を先にはめ込む
(シーン選択ボタンをプレート穴に入れる)
- ②プレート全体を押さえてはめ込む



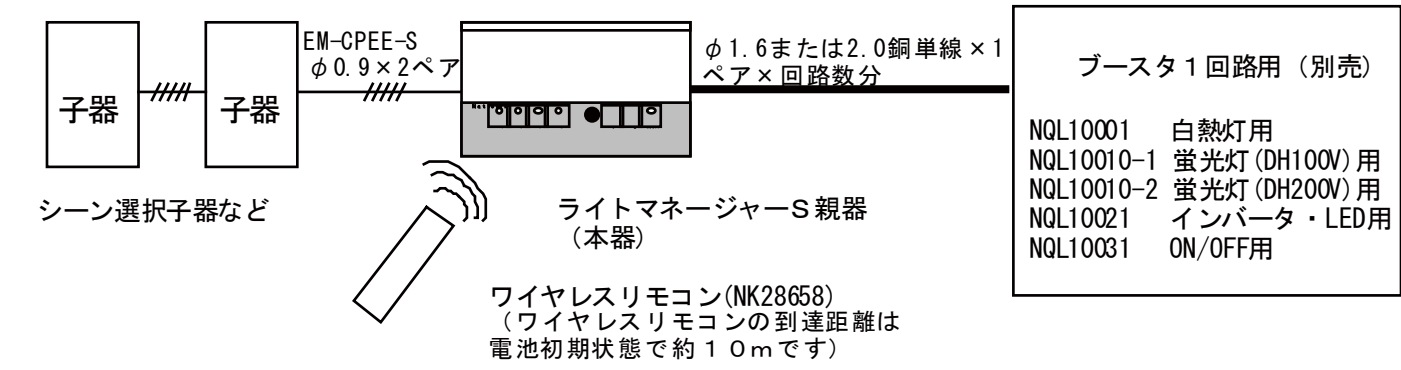
【プレートのはずしかた】

プレートの下部を親指で押さえながら、手前にひいてください。



【システム構成】

本器は1回路あたり500VAまで(ただし4回路は合計1300VA、6回路は合計1500VA)の電力回路を内蔵していますので、白熱灯を直接「出力」端子に接続して調光することができます。より大きなワット数の白熱灯や、蛍光灯を調光する場合には、別売のブースタ1回路用が必要です。また、シーン選択子器などを接続して、多箇所からの操作や外部接点によるシーンの再生も可能です。



- 伝送信号で接続できるのは、親器（本器及びライトマネージャーL記憶式）と子器です。ライトマネージャーL手動式や他のシリーズの操作器は接続できません。周辺機器の接続方法や使い方については、それぞれの説明書をご覧ください。
- 接続できる子器は、シーン選択子器(NK28614)、2ボタン子器(NK28602)、パーティション子器(NK28600)、天井取付リモコン受光子器(NK28693)、接点入力子器(NK28692)、タイマー子器(NK28691K)の6種です。

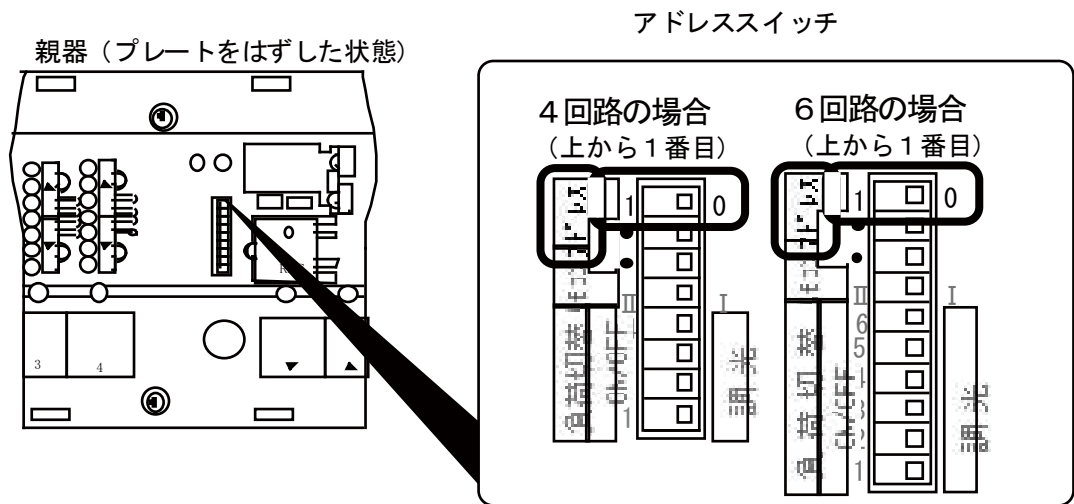
【親器2台の連動動作について】

本器を2台接続（またはライトマネージャーL記憶式と接続）すれば、連動動作を行うことができます。連動動作とは片方の親器でシーン選択をおこなうと、もう一方の親器も同じシーンに切り替わるといった動作です。シーン記憶/再生、全消灯を連動操作できます。ただしマスター調光は操作は連動しますが、マスター調光レベルは連動しません。最大12回路（6回路×2台）の一斉操作が可能になります。

連動動作を行うには下記の2点が必要です。

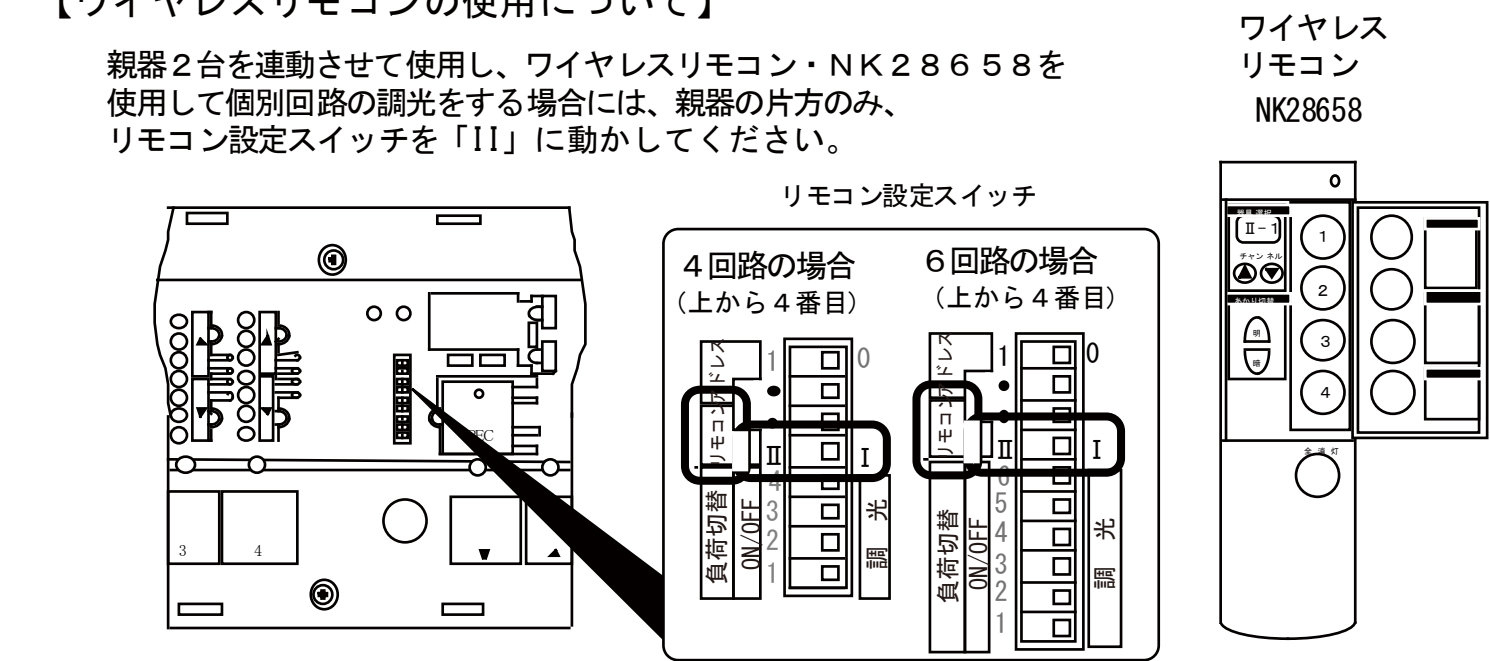
- (1) 伝送信号の配線 2ページに従って伝送信号を配線し、親器2台を接続してください。
- (2) アドレススイッチの設定 親器1台のアドレススイッチを「1」に設定してください。もう片方の親器は「0」にしておきます。

注意
親器1台のみの場合はアドレススイッチを必ず「0」にしてください。

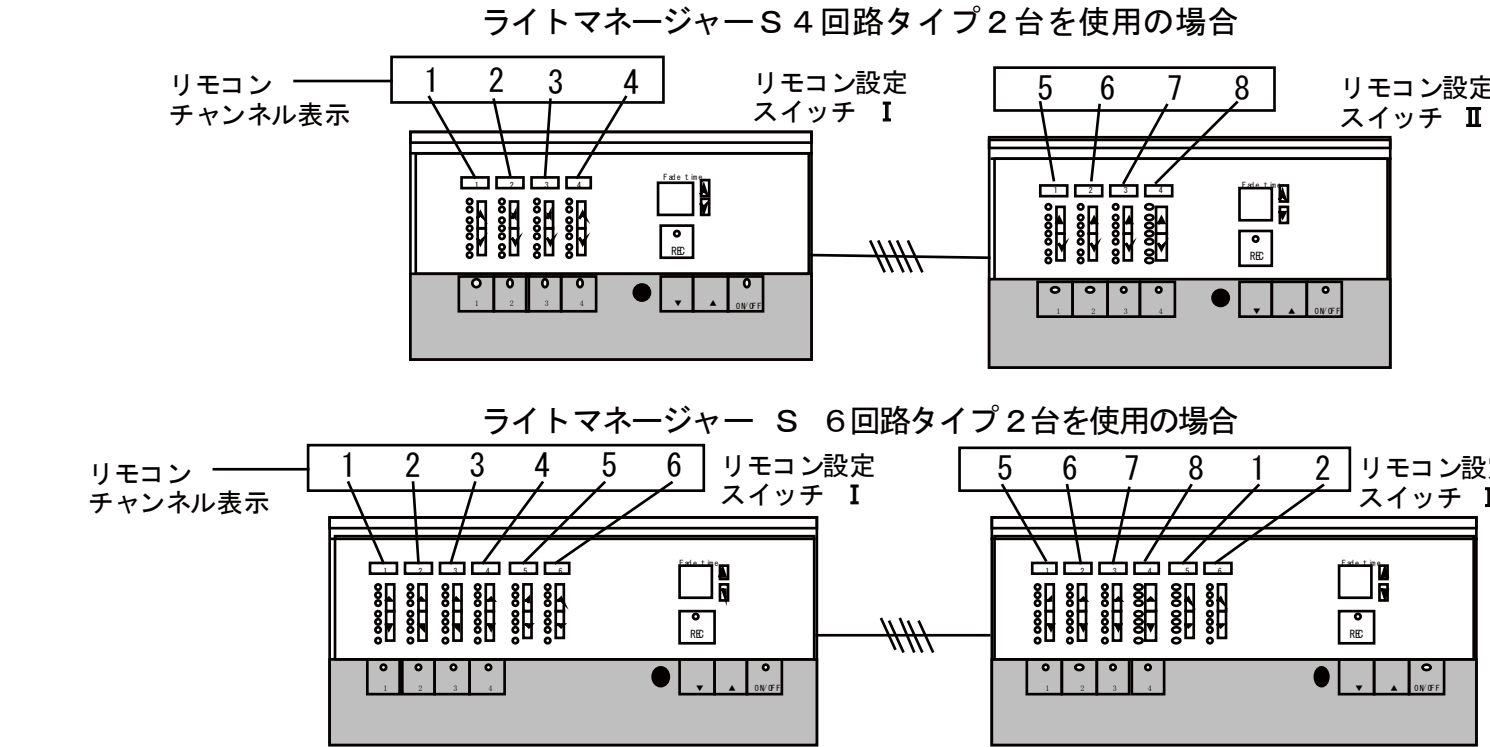


【ワイヤレスリモコンの使用について】

親器2台を連動させて使用し、ワイヤレスリモコン・NK28658を使用して個別回路の調光をする場合には、親器の片方のみ、リモコン設定スイッチを「II」に動かしてください。



また、ワイヤレスリモコンのチャンネル表示は8回路分であるため、これを越える回路数の個別調光をワイヤレスリモコンで行う場合、下図のように対応する回路が重複します。例えば4回路×2台の場合には、各回路に1対1で回路が割り付けられますが、6回路用×2台の場合には、ワイヤレスリモコンのチャンネルを1、2、5または6にあわせて調光操作を行うと、2台の対応する回路が同時に調光されてしまいます。各回路を別々に調光するには、親器を直接操作する必要があります。親器を直接操作してシーンを作れば、シーン再生はワイヤレスリモコンで行うことができます。



尚、ワイヤレスリモコンの「全消灯」ボタンは、本器のメインON/OFFボタンに対応しており、一度押すと全照明を消灯し、もう一度押すと消灯前のシーンを再生します。